ヒロシマ ユネスコ

ユネスコ・サロン予告

〔第92回〕
3月18日(土)　13：30～15：00
「オルゴール百話／鑑賞」(仮題)
講師／橋本勇夫さん
〔第93回〕
5月27日(土)　14：00～15：30
テーマ、講師は交渉中
場所はいずれも広島アンデルセン
会費 1,000円

ユネスコ「平和の文化」

広島県ユネスコ連絡協議会
会長　永井滋郎

本二〇〇〇年は、国際連合が定めた「平和の文化国際年」であります。それは、ユネスコの提唱する「平和の文化」という考え方を国連全体として受けいれ、世界に周知させる記念の年です。

ユネスコは、一九四五年創設以来、その憲章にうたう「人の心の中に平和を築く」基本精神をもって、教育・科学・文化およびコミュニケーションの諸分野で国際理解・協力を推進してきました。

しかし、一九九〇年前後の冷戦終結とともに、民族紛争、宗教対立、地域戦争が多発する世界の危機的状況に対し、(前)ユネスコ事務局長フェデリコ＝マヨール氏などの指導で、「平和の文化」(Culture of Peace)という新しい平和概念を強く打ち出しました。

「平和の文化」とは、人権尊重、男女平等、民主主義、非暴力、相互尊重、寛容、国際連帯、持続可能な開発、情報公開など、広い内容を含む平和の概念です。そして、軍縮あるいは単に戦争が無いというような消極的なものではなく、体制や国家が対立した20世紀の価値観を克服することによって、真の世界平和を積極的に創造していこうとする考えであります。すなわち、20世紀の「戦争と暴力の文化」を否定し、21世紀にふさわしい人々の心の持ち方、態度、実践的行動など、真に平和を愛する人間の文化を実現しようとするのです。

これは、「ヒロシマ」が世界に求めてきた核廃絶と平和文化建設への願いと軌を一にしているものと考えられましょう。現ユネスコ事務局長松浦晃一郎氏(一九九九年一一月就任)も、そのユネスコの「平和」理念を堅く守っていくことを強調しているのであります。

(顧問)

「わたしの平和宣言」キャンペーン始まる

巻頭でも永井滋郎先生が述べられているように、ことしは、国連「平和の文化国際年」です。ユネスコ(本部はパリ)は、ノーベル平和賞受章者たちの起草による「わたしの平和宣言」への署名運動を全世界でスタートいたしました。

これに伴い、わたしたちの広島ユネスコ協会も加盟している民間ユネスコ運動推進団体である(財)日本ユネスコ協会連盟は、日本国内での同署名キャンペーンを始めました。世界で一億人の署名を目標とするこの運動に、当協会も賛同し、参加いたします。追って皆さんにお願いすることになろうと思いますが、よろしくお願いします。

「わたしの平和宣言」

1、すべての人の生命を大切にします
2、どんな暴力も許しません
3、思いやりの心を持ち、助け合います
4、相手の立場に立って考えます
5、かけがえのない地球環境を守ります
6、みんなで力を合わせます

理事会・総会ご案内

〔理事会〕
とき　三月十八日(土)
午後三時～五時
(ユネスコ・サロン終了後)
ところ　広島アンデルセン
議題　総会議案審議ほか

〔総会〕
とき　五月二十七日(土)
午後三時半
(ユネスコ・サロン終了後)
ところ　広島アンデルセン
議題　一九九九年度事業報告、同決算報告
二〇〇〇年度事業計画、同予算案

編集・発行／広島ユネスコ協会（事務局：広島市東区牛田新町一丁目8－3　広島市牛田公民館気付　☎082－227－0706）

盛大にユネスコ新春フェスタ

奨励賞表彰式、広島大学長のトークなど

第2回広島ユネスコ活動奨励賞表彰式と文化行事を組み合わせた「広島ユネスコ2000新春フェスタ」（当協会主催、広島市教委後援）は、受賞団体、広島市教育行政、国際交流機関関係者、当協会会員ら八十人が出席して一月二十二日、メルパルク広島で開かれました。

第一部の表彰式では、北川建次会長の主催者挨拶、吉中康磨（財）広島平和文化センター理事長の来賓挨拶の後、審査委員長・中山修一広島大学大学院国際協力研究科長の「講評」、学校部門四校、社会部門三団体に賞状、賞杯、副賞が贈られました。この後、受賞者が活動内容を発表しました。

第二部は、原田康夫広島大学長出演の「トーク＆独唱」。原田学長は、昨年は広島大学創立五十周年記念の歌劇「蝶々夫人」で主役ピンカートンを演じた第一線テノール歌手でもあり、耳鼻咽喉科の医学博士。「歌に生き、学に生き～教育・医学・文化」と題して縦横・洒脱に語っていただきました。そして、話の途中にお得意のテノールの美声でイタリア歌曲を広島文教女子大新宅雅和教授のピアノ伴奏で披露され、最後は歌唱の恩師、故阿部幸次氏を彷彿とさせる「音戸の瀬戸」を熱唱、会場の拍手がしばらく続きました。

（表彰式の模様）

この後、受賞者を招待し記念パーティー。多山報恩会増井清理事長の乾杯の音頭で宴が始まり、受賞者同士の交歓、交流の時間が和やかに流れました。

今回の事業から導かれることは、広島ユネスコ活動奨励賞が、広島の教育現場と民間の国際理解・交流活動を励ます役割を担い得る事業であることを実証したということでしょう。

ユネスコ活動奨励賞受賞者紹介

＜広島市五日市東小学校＞　被爆五十周年の「子ども平和の集い」参加と大韓民国大邱市ボンムル小学校との交流を契機に始まった国際理解教育は「国際的視野を持ち、自ら学ぶ人間性豊かな児童の育成」を主目標に96年から毎年、研究主題、年間計画を多角的に策定し学校行事、学年・学級の運営・授業を実践してきた。これは、国際理解教育の研究開発と実践の一つの典型を示すものである。とりくみでは、研究授業、ボンムル小学校との交流会、ホームステイ、韓国・朝鮮民話の観劇、韓国民舞の発表、児童代表の海外研修（光州）、作品交換と多岐にわたる。また、留学生を交えた交流・学習ではアジア各国、南北米大陸の国、豪、欧など十数カ国に及ぶ。これらを通じて児童の間に「自・他国文化の理解と尊重」「コミュニケーション・表現力」「連帯・協力の実践的態度」（具体目標）が着実に根づきつつある。

＜広島市本川小学校＞　爆心地に最も近い同校被爆旧校舎地下室が、本川小学校平和資料館として蘇り、これを拠りどころの一つとして平和教育を積極的に進めている。とりわけ「平和のつどい」では毎年、同資料館での学習をもとに各学年が校内、地域、平和公園で同校卒業生の被爆体験を聞くなどの学習をし、全校で発表会を行っている。また、平和学習ガイドブック、ガイドマップ発行など学校の内外に向けた平和教育を継続している。84年、ドイツ・ハノーバー市ペーターペーターゼーン小学校との姉妹校締結以来、書画の作品交換、文通、同校代表を迎えての交流（95、97年）のほか、中国、カンボジア、印、パキスタンからの留学生、研修生を迎えて異文化理解、国際交流を積み重ねている。これらの平和学習、国際交流の資料が展示、保存されている。国際理解、国際交流に加えて平和教育を全校挙げて継続的にとりくむ活動は評価される。

＜広島市国泰寺中学校＞　52年JRC（青少年赤十字）加盟以来、困窮している国、人々に対して募金活動を行い、義援金を送る国際協力活動にとりくんできた。最近では、99年台湾大地震に際して、生徒会役員が登校時に呼びかけ、ホームルームで討議し、生徒会主導のボランティアによる募金にとりくみ、日赤広島県支部に義援金を寄せた。同年六月の広島大雨災害でも義援金にとりくんだ。このほか、阪神大地震で生徒、教職員、PTAが募金活動を行い、また、被災により転入してきた生徒が在籍していた学校に学用品を送り、ロシアのタンカー重油流出事故では重油回収作業に従事する赤十字奉仕団に募金を届けた。国際的支援では、地雷で脚を失ったカンボジアの人々へ義足を贈るための使用済みテレホンカード収集、ネパールに井戸を掘る飲料水供給支援募金など。国際交流活動も併行してとりくんでいる。

＜広島皆実高等学校＞　91年、広島～ソウル間航空定期便開設を機に大韓民国ソウル市大

（次ページに続く）

新高校と姉妹校関係を結び、同年、同校生徒会、サッカー選手ら交流団を迎えて親善試合、ホームステイを行ったのを皮切りに毎年、幅広くスポーツ、文化にわたって訪問し合い、異文化生活に触れながら密度の高い友好親善交流を全校挙げて継続・推進している。92年、生徒会、サッカー部などが訪問して親善試合を行い、93年、皆実高文化祭に大新高美術・写真部一行を迎え、両部の作品との国際交流展を開催。同年末には広島スタジアムで全生徒が大新高を迎えて交流会と親善サッカー試合を実施。以後、毎年、サッカーと芸術文化交流を柱に友好親善を促進、今日に至る。また、95年からの両校教職員の相手校生徒への講演活動は、人と作品の交流を補完する。異文化理解と知的交流を促進する試みとして注目される。

＜日中友好の輪を広げる会＞ 会の結成は81年。活動内容は中国に対する医療・教育・農業分野での協力と災害復旧支援活動。結成後直ちに医学参考書、児童向け書籍・スポーツ用具を送り始めるとともに在広中国人留学生対象の側面支援、留学生受け入れ、公民館での中国語会話教室にとりくむ。88年、医療設備補助のために日本円を、翌年には湖北省宜昌市中医院へ眼科を主にした医療機器を、91年、宜昌医学専門学校付属病院に超音波診断装置を、97年コンバインなどの農業機械を贈る。これらの支援活動は現地の生産と生命に貢献するものとして深く感謝された。活動は物的支援に止まらず、98年に宜昌市の医師らを招いたのをはじめ、これまでに中国の学術、医学、農業の専門家ら訪日の労を取り、広島などでの研修の場を提供してきた。このほか、湖北省一帯の大洪水被災では学校の校舎建設などに寄与。

＜広島アジア友好学院＞ アジア地域の平和と共生を目的に96年設立。語学・平和講座、アジアでのボランティア実践が事業内容の会員25名の市民団体。同年、中国雲南省地震災害支援のボランティア・ツアーを組織して現地小学校の再建を支援。98年現地の協力を得て中国・内モンゴル自治区アラシャン地域ボヤンホト市中等専門学校（日本の中学・高校・短大に相当）との間で、日本語教室開設、留学生受け入れ、環境保護の植林支援、農業・経済への寄与等を柱にした友好交流協定を結ぶ。98年から植林ボランティアを募り、三回にわたって環境破壊で砂漠化が著しいアラシャン地域でスギ、マツなどの苗木を植える。昨年末に植林支援キャンペーンの現地の写真・絵画展を広島市で開催。現在、同校から三名の留学生を受け入れ、2000年には六名を計画している。また同校の日本語科講座にも協力している。

＜カタール会＞ アジア大会開催（94年）を機に始まった広島市の一館一国・地域応援事業で安佐公民館はカタールを応援し、96年、同国訪問。同年、訪問団を核に会発足。贈られた小・中学生の絵画を旧安佐町内小・中学校で展示したのを始まりに、翌年から、両国児童・生徒の絵画・手紙を毎年交換して公民館、学校、児童館などで展示し文化交流を進める。98年、アジア陸上選手権福岡大会で選手団を激励し、交流。また、駐日大使・公使、元大臣らの来広（98年、99年）時に交流を深め、その都度、広島平和記念資料館などを案内して被爆の惨状と平和への願いを訴えてきた（会も駐日大使館を訪問）。カタールとの交流のほかにインド、ベトナム、欧米の留学生、研修生らを招いて「国際理解講座」（安佐公民館）に青年団、中学校などと共に参画、地域の「アジアの国々の理解」（同会規約）を促す推進役を果している。

第22回高校生のつどいを開催

昨年十二月十九日（日曜日）、広島大学附属高等学校研修館において、「第二十二回広島ユネスコ高校生のつどい」が開催されました。今回は、「ともに生きるために～環境問題を考える～」をテーマとして行われました。

つどいの初めに、北川建次広島ユネスコ協会会長からつどいの趣旨等についてお話をいただきました。続いて、広島大学附属高等学校ユネスコ班による「環境問題を考える」の発表が行われました。この発表は、同校ユネスコ班が昨年六月の文化祭で発表した内容と、八月の全国高校ユネスコ研究大会で発表した内容を再整理したものでした。

発表後、コーヒーブレイクを兼ねて、環境問題や識字、国際理解等に関して、各学校での取り組みの報告や意見交換が行われました。ここ数年、つどいの参加校は、広島市内の高校でユネスコクラブのある広島桜が丘高等学校と広島大学附属高等学校の二校に限られていましたが、今回は新たに安芸府中高校のご参加をいただきました。このご縁を大切にして、ユネスコ活動の趣旨にご賛同いただき、つどいにご参加いただける学校を少しずつでも拡大していきたいものと考えております。

つどいの後、例年通り、広島そごうデパート前で一時三十分から三時三十分までの約二時間、ユネスコ・コーアクション活動全国キャンペーンの一環として、募金活動を行いました。太鼓矢晋常任理事、永田龍男常任理事のご指導の下、午後から高校生が募金活動を行いました。途中で永井滋郎先生も応援にかけつけてくださいました。寒風吹きすさぶあいにくの天候でしたが、高校生の情熱に心を打たれてか、多くの方に足を止めていただき、五万四千九十九円の募金をいただきました。この浄財は、世界寺子屋運動の事業支援金として、日本ユネスコ協会連盟に送付いたしました。

（理事・藤原隆範）

中国ブロック・ユネスコ研究会報告

中国ブロック・ユネスコ活動研究会が、去る一月二十二日・二十三日の両日、山口市のニューメディアプラザ山口を会場として、中国地区各ユ協代表ならびに関係者約百名の参加を得て、「創り出そう平和の文化」を主テーマに開催されました。当協会から山本隆信が参加しました。その概要を報告します。

◉日ユ協連理事長村井了氏の「最近のユネスコ活動について」の基調講演では、「ブロック研究会のあり方が課題で、地域振興委員会で新しいことを模索したい」、「今後の活動は軸として寺小屋運動、世界遺産に焦点をあてる」「中央委員会では、具体的に中味を討議する余裕がないので、ブロック活動研究会にフィードバックして討議を深めたい」などと述べられました。

◉現地視察・活動報告として、世界寺小屋運動現地視察「バングラデシュを訪問して」の山口県青年ユ連協と青年部活動報告が宇部ユ協青年部から、それぞれスライドを交えて具体的に紹介されました。

バングラデシュ報告では、厳しい環境条件の中での識字教育の状況が写し出されましたが、子ども達の光り輝いている瞳は印象的でした。宇部青年部は、各種の年間活動を紹介し、活動の楽しさや苦労、工夫、今後の展望について若さあふれる力強い報告をされました。

◉各ユ協からの事例報告は、鳥取ユ協の「妻木晩田遺跡について」をはじめ、世界寺小屋運動、啓発、国際交流、ボランティア、研修活動など幅広い内容のものでした。

広島ユ協からは、本年度実施の「知っておきたいヒロシマ講座」ユネスコトーク「わが町のお宝再発見」、継続の「広島ユネスコ活動奨励賞」「ユネスコサロン」などについて概略を報告しました。

◉記念講演は、世界的な数学者の山口大学学長廣中平祐氏が「生きること学ぶこと」の演題で、世界的数学者として、また、国際性豊かな体験をとおして、「数学は世界の言語である」「三代論」など持論を展開され、含蓄のある示唆に富んだお話は、参加者に深い感銘をあたえました。

◉閉会式では、次期開催地の広島から県ユ連協会長永井滋郎氏のあいさつがありました。

（常任理事・山本隆信）

知っておきたい「ヒロシマ講座」最終講座へ

▽日時　三月二十二日㈬　18時半～20時
▽会場　広島平和記念資料館
▽演題　「国際編～世界をめぐる核の情勢」
講師／広島市立大平和問題研究所・水本和実助教授
▽当日受講受付　資料代五百円

世界遺産見学ツアー　氷見ユ協が来広

富山県氷見市のユネスコ協会世界遺産見学ツアー一行九人が二月十二日、広島を訪問。二日間にわたって熱心に見学されました。

錦帯橋などの見学の後広島入りの一行を、当協会北川会長ら四人が迎えて交流会をもち、日頃の活動状況を報告しあうなど交歓しました。

翌朝、厳島神社を見学、午後から広島原爆資料館で語り部の岩本節子さんから被爆体験を聞いた後、岩本さんの案内で展示資料の見学、碑めぐりそして原爆ドームの視察と続き、一行の感慨もひとしお、熱心にメモを取っていました。

（事務局長・亀井　章）

杉並ユ協青年部　三月末、広島再訪

昨春、原水禁運動の発祥の地、東京・杉並のユネスコ青年部が世界遺産見学で広島を訪問されましたが、「好評につき」再度、青年部（高校生十五人、理事ら四人）が、三月二十八日～三十一日の日程で来広されます。

インターネットで情報発信

当協会の田川哲也さんは、インターネットで広島発のユネスコ情報を送っています。内容は、平和の話、高校生のつどい、高校でのディベート活動などですが、会員以外の方からのアクセスもあるそうです。本人の希望は、現在の間借りの状態から広島ユネスコ協会独自のホームページが早く実現することだそうです。

〈ユースフォーラム〉
http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Himawari/8495/
〈せいねんユネスコ〉
http://www.ny.airnet.ne.jp/hou/yo/unesco/home.htm

日誌

【十二月】

四日・広島ユネスコ2000新春フェスタ推進会議

十八日・広島ユネスコ活動奨励賞審査会

十九日・「高校生のつどい」～広島大学附属高校で。
・午後、コーアクション／街頭募金活動～広島そごう前

二〇日・広島ユネスコ活動奨励賞記者発表～二十六日付中国新聞に記事掲載

二二日・知っておきたいヒロシマ講座「被爆の実相」講師／高橋昭博副会長～広島原爆資料館で

【一月】

十五日・広島ユネスコ2000新春フェスタ推進会議

二二日・新春フェスタ（第2回広島ユネスコ活動奨励賞表彰式、トーク&独唱、記念パーティー～メルパルク広島

二六日・知っておきたいヒロシマ講座「科学編」～木村進匡副会長～広島原爆資料館で

【二月】

三日・文化部会

十二日・富山県氷見ユネスコ協会、世界遺産学習のため来広。十三日まで

二三日・知っておきたいヒロシマ講座「文化編」～中国新聞安藤欣賢論説副主幹～広島原爆資料館